

「アカデミア・コンソーシアムふくしま」の構築による 広域連携型学士力向上プログラム

れんけい

大学のさまざまな「資産」を活用し、「地元へ貢献する」大学づくりをすすめます！！



事業推進会議開催

アカデミアコンソーシアムふくしま

本年第2回のアカデミアコンソーシアムふくしま事業推進会議が10月22日日本大学工学部を会場に開催されました。

この事業推進会議は、高等教育機関の副学長またはそれに準ずる者、特別会員（福島県、福島県市長会や福島県商工会議所連合会など）からなる委員で構成されるもので、活動全般の企画・立案・実施に関わる事項が審議されます。

本会の議長は、福島大学の清水理事・副学長、副議長は福島高専の根岸副校長です。当日の主な議題を紹介いたします。まず、最初に、平成22年度「戦略的学術連携事業」の進捗状況が事務局の上遠野教授より12のプログラムについて、報告されました。生涯学習プログラムでは、パンフレット「いつでもだれでも大学生」を2万部作成し各大学の公開講座の考え方や方針等を掲載し、市町村学習センターなどで地域住民に



配布した活動が報告されました。また、国際化プログラムでは、会津大学が中心となり、留学生のための初級日本語講座、ビジネス日本語研修が年間計画のもと順調に進んでいること、11月27日には東日本国際大で「ふくしま国際交流スピーチコンテスト in いわき」を開催することなど、各プログラムの活動報告がありました。

次いで3つの連携部会（教育・研究・地域）の構成メンバーや部会長の選任について報告がありました。教育連携推進部会長は、福大の清水副学長、研究連携推進部会長には、会津短大の安江地域活性化センター長、地域連携推進部会長にはいわき明星大の田中副学長が就いたことの報告とそれぞれの事業計画について報告があり了承されました。

次に、全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム（大阪で9月11・12開催）への参加報告とACFの平成24年度以降のあり方について議長より提案があり、次回の本会までに構想案を提起し、来年3月開催予定の理事会に提案することを目途に、ワーキンググループを設置して検討することとしました。



目次:

がんばれ 中学生	2
福島学 講師相互派遣	2
着実に進む 人材養成	2
猪苗代湖「水質日本一」復活作戦	3
短期インターンシップ	3
スピーチコンテスト in いわき	4

第2回企画運営委員会報告

10月6日テレビ会議システムを活用して開催しました。この企画運営委員会は、事業推進会議のもとであり、ACF正会員校や各部会の責任者として各事業の責任者で構成されています。委員会では、各事業の実施体制や実施計画、情報収集や提供、広報活動などを審議します。さらに、委員会には3つの部会、教育連携部会、研究連携部会、地域連携部会が設置されています。

会議では、本年度の戦略的学術連携支援プログラムである12の事業について進捗状況が報告されました。報告では各プログラムが昨年度の準備期間を踏まえ、本格的に進行していることが報告されました。



「生きる力」養成プログラムの報告では、DVD「起き上がり小法師」の制作が各大学等の学生や職員が参加し、12月の撮影に向けて順調に進行していること、教員養成・研修高度化プログラムでは、只見町教育委員会などの協力を得て、「福島県の教員になりたい学生のための大学間交流セミナー in 只見」を開催し、6大学から学生31名教員7名の参加があり、授業参観や現職教師との意見交換など多彩な内容であったことが報告されました。

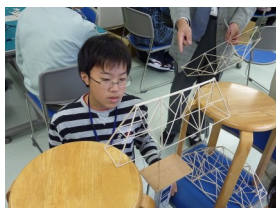


←各参加大学の皆さん キー局的福島大会会場→

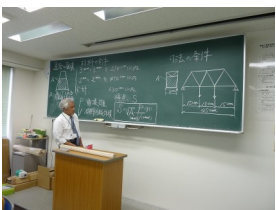
がんばれ中学生！！

モノづくりプラントキャンパスプログラム

福島高専の会場にて



未来の設計者
ブリッジの強度を測る



ブリッジの強度は……………！

福島大学講義室



中村名誉教授による講義



生涯学習Pのチームミーティング



テレビ会議で議論中



アイデアを絞り、少ない材料で強い橋を創造！！

「福島県中学生ブリッジデザイン講習会実施」10/2,10/24会場：福島工業高等専門学校
11/6（土）開催のブリッジデザインコンテストに向け、県内中学生（31名）に対し講習会を開催した。

第1回目は10/2（土）に開催し、福島大学の小沢喜仁教授がACFの取り組みを説明、福島工業高等専門学校の根岸嘉和教授が「構造の形と強さ」について講義し、構造設計とモデル解析、強度予測と実験を行った。

第2回目は10/24（日）に開催し、前回講義で学んだことをもとに、試作品を作成し強度予測と実験を行った。実際に荷重をかけて橋のたわみを見る、または壊れた部分について高専の学生らのサポートを受けながら分析

し、力のかかる部分について工夫しながら補強を行っていた。11/6開催のコンテスト出場に向け、受講中学生は真剣なまなざしで参加していた。

【福島県中学生
ブリッジデザインコンテスト】
日時：平成22年11月6日（土）
会場：福島工業高等専門学校



共通授業構築に向けた相互講師派遣

「福島学」プログラム

福島大学「福島研究」で 日大・中村先生が講義

福島大学の「福島学」プログラムである「福島研究」（鈴木典夫氏担当）で、同プログラムの個別テーマ「福島の水」調査を実施している日本大学工学部・中村玄正名誉教授による猪苗代湖に関する講義が、学生120名で満席の教室にて10月21日に行われた。

猪苗代湖水系には素晴らしい天然の浄化作用があること、野口英世が少年時代に湖岸でシジミを採っていたこと、近年、中性化と水質汚濁が進んでいることなどを具体的な調査結果のデータをもとに話された。

翌々日23日の猪苗代湖漂着水草回収のボランティア活動参加の直前でもあり、学生らは熱心に聴講し、時間間際まで質問をしていた。

水草の繁茂は積年の結果で、ある時気づかされたこと。漂着水草の回収は、自然の回復力の循環が戻るまで根気よく続ける必要があるなど説明があった。

同講義には、福島県立医科大学から「福島学」Pメンバーの藤野美都子教授が聴講した。

講師の相互派遣は、11月2日に福島県立医大の「福島学」（藤野美都子教室）で、福島大学・木村吉幸教授による「福島の野生動物」の講義が行われる。

着実に進む 人材養成

SD合同研修プログラム

SD合同研修プログラムで開催する講座・研修は、10月にも実施されました。

まず、10月14日には第2回アドミニストレーター養成講座が開催されました。この研修では昨春秋および今年春に採用されたばかりの、福島大学教務課の岩下悟士氏と早坂美春氏の2名が、大学に関する法体系と大学の教育改革の動向をテーマに講義を行いました。今回もテレビ会議システムを活用し県内計5会場で同時中継され、各校の事務職員28名が参加しました。会場内では、初任者であるにも拘わらず充実し落ち着いた報告であったと、高く評価する声が多数聞かれました。

また、10月26日には福島県立医科大学が実施校

となる形で「若手職員研修」が開催されました。

こちらは東北大学大学院の若島孔文先生によるメンタルヘルス研修と、福島民報社の佐久間順氏による「わかりやすい」文章作成研修の二部構成で、各高等教育機関から11名の参加がありました。若手職員のスキルアップに欠かせないテーマということもあり、興味深く受講する参加者が見られました。

このSD合同研修プログラムの研修も、残り2回となりました。次号では「タイムマネジメント研修」の話題をお知らせします。



「水質日本一」復活作戦！

「福島学」プログラム

猪苗代湖の漂着水草回収に 学生ボランティア117名参加！

ACFが「清らかな湖・美しい猪苗代湖水環境研究協議会」と共催して実施した「猪苗代湖の水質保全のための水生植物回収事業」の漂着水草回収作業に、福島大学、福島県立医科大学、福島学院大学、日本大学工学部の学生117名が参加した。

ACFでは、「福島学」の関連事業として、地域を知る、また地域のために行動する実践的教育、地域連携実践活動に位置づけ、学生ボランティア行動日を設定し参加を呼びかけていた。

10月23日（土）は福島駅からバス2台に分乗し60名が「天神が浜」へ集合した。県外出身や猪苗代湖ははじめての学生が数多く参加し、「あれが磐梯山か！」、「白鳥や！」の声があがっていた。

同30日（土）は、台風14号が接近するなか、「小雨決行」。郡山駅前と日大前から57名が「松橋浜」へバス2台に分乗し集合した。季節外れの台風接近という異常な気象を肌で感じながら、猪苗代湖の自然の浄化機能回復の思いを込め作業をこなしていた。

・福島民友 取材「水質日本一復活へ 福島大生ら湖美化」

10月23日の活動は、福島民友新聞の取材があり、翌24日の朝刊に活動が紹介されました。



参加されたボランティアの皆さんと
磐梯山をバックに記念写真



漂着水草清掃作業中の
ボランティアのみなさん



漂着水草をコンテナに回
収する参加学生



湖岸に漂着する水草 回収のためのボランティア

清らかで美しい猪苗代湖は、福島県民の大切な財産です。その水質は平成14～17年度まで、**4年連続水質日本一**でした。平成18年度に大腸菌群数が環境基準超過となり評価ランク外となってしまいました。また近年、pHの上昇、CODの微昇等、水質汚濁の進行が懸念されています。そこで、再び水質日本一を取り戻し、猪苗代湖の水環境を美しいまま次代に伝えていくため、平成20年度に民・産・学・官が一体となって実践活動に取り組むこととし、「清らかな湖、美しい猪苗代湖の水環境研究協議会」が発足しました。（同協議会HPより）

猪苗代湖の水生植物の漂着回収作業は、8月28日から毎週末実施され、述べ1289人が参加し、68.4立方メートルの水草が回収されました。

湖岸に漂着する大量の水草はかつて水質日本一を誇った猪苗代湖の水質汚濁の一因になっています。この事態に対して県民が一体となり漂着水草を回収することにより猪苗代湖の自然を保全しようとする活動が起きています。連携事業は、実践的教育、地域連携活動の一環として、この活動に参加いたしました。



湖岸に打ち寄せられた水草



あいにくの雨の中の作業

短期インターンシップ

SD合同研修プログラム

短期インターンシップに参加して 蓮 沼 徹 也

今回、私は福島工業高等専門学校を訪問させていただきました。その中で深く感動したことは、たまたますれ違った際に、何のためにもなく学生達が挨拶してくれるところです。さらに、私達が見学のために運動場に降り立った際には、そこでラグビーの練習をしている若者のほぼ全員が、プレー中にも関わらず、大きな声で「こんにちは！」と応えてくれました。

このような様子を見たとき、教育機関に働く我々にとって、「人づくり」あるいは「人格形成」という観点が欠かせないものの

だ、という想いでいっぱいになりました

異なる機関に働く者どうしが、さまざまなテーマについて共感し、あるいは意見を出し合って心を通わせ、同じ「人づくり」を目標に掲げる仲間であることを確認し合えたことは、この研修の最大の成果です。今後も、他大学・高専間の人的な交流を重視して、互いに切磋琢磨することによって、高等教育業界全体の活性化を図る機会を設けていただければと思います。

業務研修中！！
福島大学の蓮沼さん



福島大学において研修中の福島高専の職員



福島大学教務課での
インターンシップ



地域のにぎわいは地域に根ざした人づくりから



“学生目”で見た経験を活かす”

研究員 岩本正寛

ついに“れんけい”のコラムを書く当番が回ってきました。好き勝手に、それこそ趣味の話題を書いてもいいというお許しは編集長から頂いておりますが、第一印象が大事ということで、初回ぐらいは真面目に書いておきたいと思っております。私は今年の3月まで地域政策科学研究科の大学院生として、福島大学に在学していました。ということは、その当時は既に同じキャンパス内に大学連携センターがあったはずなのですが、正直に申し上げてその存在を知りませんでした。この連携事業についても、それは同様です。

それが今となっては、何かの事業の度に学生さんに対して連携事業について説明しなければならない立場です。学生時代と同じ認識では、仕事になりません。

さて、その説明をするときに心がけたいのが、私自身も大学連携センターに入るまで、この事業そのものを知らなかったという経験を活かすことです。知らないことを前提に話す、ということは結構大切なことですから。

しかし、その具体的な方法については、なかなか名案が思い浮かびません。

「実は私も学生時代は存在を知らなかったんですよ」と、自虐的、自嘲的に話題にするのが関の山で、それ以上のことは思いつきません。

この経験を活かした方法について、なんとか開拓したいものですが、果たして年内に開拓できるのかどうか。そんなんじゃダメだ、という声があちらこちらから聞こえてきそうですが、この課題は意外と難題なのです。



ふくしま国際交流スピーチコンテスト2010inいわき 岩本研究員レポート

最近、異文化交流やカルチャーショックの体験をされていますか？

久しくこうした異文化交流やカルチャーショックの体験をしていないな、という方にお勧めなのが、11月27日(土)に開催される国際化プログラムのビッグイベント、「ふくしま国際交流スピーチコンテスト2010inいわき」です。

今年は東日本国際大学で開催されます。

テーマを「私の感じたカルチャーショック」としたスピーチコンテストと、いわき地区の伝統芸能である「じゃんがら念仏踊り」を通じての留学生と地域の文化交流という二部構成で開催されます。

このイベントは、留学生が参加するスピーチコンテストというだけではなく、日本人の学生もスピーチをするという点が特筆されます。留学生にとってのカルチャーショックはもちろんの

こと、日本人学生が語るカルチャーショックというものも、なかなか興味深いものがあるのではないのでしょうか。皆様のご来場を、お待ちしております。



アカデミア・コンソーシアムふくしま



国立大学法人

福島大学
Fukushima University

福島大学
大学連携センター

編集・発行
大学連携センター
TEL.024-548-5295
福島市金谷川1

